

PTA だより

茨城県立常陸太田特別支援学校 P T A

令和3年12月23日発行 No. 4

2学期も終業式を迎え、今年も残りわずかとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度もPTA活動がなかなか実施できないなか、手指のアルコール消毒や体温チェック等の感染防止対策をして『ツナイデコウ』を実施することができました。3学期の活動については、『鯨ヶ丘ウォークラリー』を検討しているところです。会員皆様の健康と安全を第一に考え判断してまいりますので、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【PTA主催「ツナイデコウ」】

○第1回：11/ 9(火) ルール・テーマ決め

○第2回：12/21(火) 学校のこと、こどもとのかかわり

今年度は、11月からのスタートとなりました。日々状況が変化
する中で、今出来るカタチで開催しました。日々の生活で感じた
思いを聞いてもらい、自分以外の方の思いを聞くことで、共感や安心感を感じられたようです。新しい生活スタイルの中、見通しが立てづらいこともあります。みんな頑張ってます。今後の状況を見ながらとなりますが、1月からも開催予定です。よろしくお願いします。

3学期の予定

1月 18日(火) 9:30～11:30

2月 15日(火) 9:30～11:30

3月 8日(火) 9:30～11:30

※変更や中止の場合もあります。

(PTA会長 安 淳子)

..... 常設委員会・学年行事 活動報告

【研修・厚生委員会】

◇11月26日(金) 本校にてPTA研修・厚生委員会主催の「第1回PTA研修会」を開催いたしました。例年外部講師に依頼をし、講話や施設見学を行ってききましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、本校職員が「進路」と「思春期」をテーマに講話を行いました。研修会のテーマはPTA研修・厚生委員会で検討し、保護者の皆様からも聞きたいことを伺いました。当日は、35名の保護者が参加し、2会場にわかれてリモートで行いました。参加者からは「思春期の心構えができた。」「インターンシップの様子を見ることができてよかった。」と感想をいただき、有意義な研修となりました。



【広報委員会】

11月18日(木)に第3回広報委員会を行い、広報誌第20号の編集作業を行いました。

2学期は、少しずつですが行事が増えてきましたので、児童生徒のキラキラと輝く姿を掲載することができました。

様々な体験をとおして成長している子どもたちの姿を8ページ構成でお届けします。

【学年委員】

12月14日(火)の運営委員会で学年委員さんから、それぞれの学年で話題に出ていることについてお話をいただきました。「コロナ禍でなかなか集まれている。」「来年、コロナが落ち着いたら、学年の保護者の方と親睦を深めたい。」「保護者会の際に保護者で集まる時間がほしい。」など様々なお話を伺いました。

..... 特P連・知P連研修会の報告 1

特P連知P連合同 第2回会員研修会(オンライン開催)

期日：10月21日(木)

会場：各学校でオンライン

演題：「郷土史防災～地域の成り立ちから防災を考える～」

講師：株式会社 クレバーラクーン 常務取締役 増田和順氏

今回の講演会は、PTA役員のみ研修会に参加しました。一般の会員の方には、希望者のみにURLを伝えて、ユーチューブで視聴していただきました。

講演の内容は、常総水害などの災害で気がついたことは、神社・仏閣や古い学校・役場・遺跡・史跡のある所は、災害に強い立地で、このような場所が地域防災の指標として使えるという郷土史防災のお話でした。災害に強かった神社仏閣、役場、古い学校を調査したらほとんどがお城でした。お城は立地条件として災害や敵に攻められにくい場所に造られているので、このような理屈を知っていると初めて訪れた場所であっても、ハザードマップが無くてもある程度どこに避難すればよいか推測がつくようになるということです。今までの研修会とは一味違うお話でしたが、歴史好きの人であれば近くの神社などで調べたくなる内容でした。

知P連 第3回会員研修会(オンライン開催)

期日：12月1日(水)

会場：各学校でオンライン

提案・発表①(発表 県立友部特別支援学校PTA副会長 石原 均様)

○「創立50周年の、その先へ ～子どもたちのために、子どもたちとともに～」

本校は、令和元年11月に、県内特別支援学校で初めてとなる創立50周年記念事業を実施しました。また同時期に、従来の通学区域内を対象エリアとする新校設立への対応も経験しました。加えて、コロナ禍により長期にわたる非常事態も発生しました。このような先例のない状況が続いた中でのPTA活動について、この先も活動を担われる皆様に対し、できたこと、また、できなかったことを含めて、記録を共有し、今後の活動の参考としていただければとの思いのもと、事例紹介の形で発表されていました。

様々な変化を受け、活動や組織の見直しを繰り返し議論する中で、「絶対に間違わない」ことは不可能であり、「やってみて見直す」との姿勢で、方針を選択しました。「子どもたちのために」という軸がぶれなければ、多くの会員から賛同は得られるはずだと思います。また、難しい学校運営を担う教職員の活動に対し、保護者が力を合わせサポートすることが、「子どもたちのために」に繋がっていくものと考えたとまとめられていました。

提案・発表②(発表 県立協和特別支援学校PTA会長 清藤 里実様)

○「コロナ禍におけるICT活用へむけたはじめの一步～PTAとしての取り組みと課題～」

本校は昭和59年4月に開校し、今年で37年目を迎えました。小学部86名、中学部57名、高等部68名の合計211名の児童生徒が通学しています。通学区は筑西市(旧関城町を除く)と桜川市の2市で6台のスクールバスや電車、自転車等で通学しています。

本校のスローガンとして、「なかよく げんきで じぶんから」を掲げ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育支援を行い、児童生徒のもつ能力や可能性を最大限に伸ばして自立と社会参加をめざし、持続可能な地域社会で心豊かに生きていく力を育成しています。

協和特別支援学校のPTA組織やPTA関係でのICT活用、学校のICT環境、教職員の研修について発表されました。まとめと今後の課題は、Google Workspaceの活用、研修の機会の確保、広報活動の強化が必要であると説明されていました。